

室井先生との思い出



アーサー

室井鉄鐵衛様 禮子様

お二方おそろいで、米寿をお迎えになられまして心からお喜び申し上げます。いつも思い出しますのは、登山やスキー旅行のことです。そしてスイスのすばらしさを、青年のようにお話くださいました様子に、私も将来訪れたいと夢を抱きました。球魂会では水彩画を習っていらっしゃることを伺い、いつも探究心あふれるお姿に驚きました。これからご健康にご留意なさいましてご指導くださいますようお願い申し上げます。

磯 部 克 子（元大広）

室井先生米寿おめでとうございます。

室井先生との思い出はいろいろですが岩手県の新幹線開通に伴う影響調査をご一緒にやらせていただいた事です。南部鉄器等の特産品や浄土ヶ浜等の観光地への新幹線開通による影響を因子分析やクラスター分析で検討しました手法もエリアマーケティングの手法等いろいろ教えていただきました。結果をご一緒に岩手県庁でプレゼンいたしました。次は白寿のお祝いを楽しみにしております。

井 上 昭（元大広）

四十五年一日の如し

昭和37年新卒入社の私が、大阪今橋の旧本社での面接試験の際に室井先生は向こう側に座っておられました。中央調査社から鳴り物入りで、市橋立彦氏、角南博氏と共に大広に入社されたのが昭和36年1月（1961年）のことでした。今から45年も前のことになります。その面接の時の室井先生の優しさ、笑顔、抑制された、知性的な口調と物腰の記憶は、現在の室井先生のそれと寸分の違もないように感じられ驚きと尊敬の念を感じます。

川 口 泰（元大広）

創造的マーケティング

室井さんとお付き合い頂いて40年余りになりますが、偶々ここ数年前からお宅にお邪魔したりして、大変親しくさせて頂いております。そこで、室井さんの創られた陶器の数々に出会い、さらに愛犬や風景をモチーフにした絵画の数々を作品に接して、お名前からも堅いと言われる室井さんからは想像のつかなかった世界を知りました。クラシック音楽や宗教音楽にご造詣が深いことは、前々からお察してはいましたが、そうした90歳近い室井さんの長い経験から生まれる、広い視野を持った、衰えることの無い創造的思考のマーケティングは、何時も新鮮な感銘を受けております。

木村太三郎（元大広）

無知な学生と室井先生との思い出

室井先生との思い出は、やはり何といっても大学のゼミでの授業であり、また合宿であったと思います。一言で言って先生は博学でとても柔軟性のある方です。お酒を交えながら色々なお話をした思い出があります。私はこの先生は色々なことを知り過ぎているのではないかとやや疑念を持ったこともあります。しかしそれが大人物の証拠であり、私にとっては驚きでもありました。先生が米寿を迎えられたことをとても嬉しく思います。いつまでもお元気で。

呉 政 博（丸栄電機株式会社 営業部）

懐かしい大広調査部

大広調査部で室井さんのご指導を受けたのは、もう40年以上前の事になります。いつも若々しく、自由闊達な室井さんを、上司というより敬愛する先輩のように感じていました。当時私がもう少し仕事に意欲的だったら、室井さんからもっと沢山の事を学ばせて頂けたのにと、今でも残念に思います。どうぞこれからも若々しい感性を持ち続けられて、お健やかに穏やかにお過ごし下さいますよう、心から念じております。

小林祥子(元大広)

思い出す事

私が入社した当時の室井さんは同じ年のケネディー大統領のイメージに重なるような若々しい、青年のような指導者でした。斬新なマーケティングの考え方は私たちを魅了しました。伸び伸びと学生気分です仕事をさせてくれた包容力に今更ながら深い感謝の念を覚えるものです。室井さんと一緒に山に登ったりスキーをしたことなどもなつかしい思い出です。

斎藤ふみ(元大広)

室井先生との思い出

壮健に米寿を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

先生には組織の範疇を超えて大学の先輩後輩の立場で私的な時間でも大いに教導を受けたことを先ず感謝したい。初対面以来45年に及ぶ薫陶を詳記することはこの紙幅では到底できないが、大広に初めて社長室ができたとき部下として辞令を受けた。営業と兼務で約半年務めたが、得意先からの要請で断念した。社長室を選択していれば、もっと格物致知できたかもしれない。

菅安弘(元大広)

36年前にB・Iに挑戦

私が入社して3年目。リサーチ課に配属されて間もない1969年の頃、突然中野部長に呼び出され、室井常務からの特命があるという。当時私が担当したばかりの武田薬品に容器デザインのあり方について提案するという。当時エーザイはすべてのブランドを企業カラーで統一し、一方武田薬品はブランド個性を重視するデザインであった。今、振り返ってみるとB・I戦略の提案で、いつも最新の課題に挑戦されていたという記憶が鮮明である。

田 島 邦 彦 (元大広)

大広入社当時の室井先生との思い出

室井先生と言えば40年前、ライリーの法則を用いた大広商圈マップ、エリアマーケティングの先駆者という印象が強く残っています。当時小田中社長が大広調査強化の為に室井先生の大広入社を御願いしたと言われていました。マーケティングの大広として誇りを持って営業活動した事が思い出されます。又、箱根の大広テニス部の合宿に奥様同伴で参加され楽しくプレイされた後、美味しい仙石原のレストランでお世話になり有難う御座いました。

堀 洋 明 (元大広)

室井ルールのソフトボール

グラウンドを借りての（なんと、ゼミの時間である）ソフトボールをよくやったものです。なにせ、25年も前のこと…体力を持て余しておりました。

室井先生は、いつもピッチャーで4番。まあ、ここまでは100歩譲って良いとしても、チャンスが来ると「代打 室井」、勝手に打席に入ります。投げては、口八丁手八丁。そんな姿を昨日のように思い出します。

増 田 浩 文 (千葉商科大学)

室井先生との運命的な出会い

室井・小林ゼミ生にとって、「人生を変える出会い」は「室井先生との出会い」です。27年前、小林先生が留学された1年間、室井先生にご指導いただきました。講義は難解でしたが、広告界のことや戦争体験などの余談は興味深いものでありました。就職先をご紹介いただいたり、卒業後は先生をお招きした「室井先生を囲む会」で、仕事や家庭のことをご相談させていただいたり、先生を「人生の師であり、父親でもある」とお慕い申し上げる私たちです。

安 田 博（株式会社宣伝会議）

日本らしいマーケティングの創立者

室井先生の研究されたエリア・マーケティングは、今日の日本の消費社会でも、最も注目されているブランド・マネジメントにおける「日本らしさ」創造の基礎理論であり、世界の文化に大きな影響を与えた「江戸文化」の地域市場論形成の過程は、1960年代にコーネル大学でホスピタリティ・マーケティングを学びつつあった私にとっては、まさに「眼から鱗」の思いであった。ダニエル・ベルの「脱工業化社会」、ジョン・ガルブレイスの「不確実性の時代」、など現代社会の動きを的確に捉えつつ展開された室井マーケティング理論こそ、今日のマーケティング論の基礎である。米寿を迎え更に「マーケティングの問題」を執筆され敬服の至りである。

山 口 祐 司（富士屋ホテル(株)元副社長・現監査役

桜美林大学名誉教授、早稲田大学前客員教授

日本ホテルレストランコンサルタント協会会長

日本ホテル産業教育者グループ会長）

「室井氏41歳の時の思い出

～マーケターとしての確固たる地位を築く～

室井鉄衛先生の米寿を心からお祝い申し上げます。

室井氏と私の出会いは47年前にさかのぼる。私が社団法人日本能率協会（JMA）に入会し、マーケティング担当プロジェクターになったのが1959年。その当時は、まだJMAのマーケティング教育体系化は開発途上にあり、1953年の「日本のマーケティング元年」から数年を経過し、マスプロ、マスセール時代であったので、日本を代表する産学共同メンバーによる衆知を総合化する広告研究委員会をJMAは設置することになったのである。その目的と狙いは、メーカーに焦点を絞り今日の広告管理上の重点課題を明確にして、その中から優先順序を決めて教育プログラムの具体的開発をすることにあった。研究委員長に小林三太郎・早稲田大学教授、委員には市橋立彦・リーダーズダイジェスト社 広告局長、小谷正一・（株）電通 ラジオ・テレビ局長、小林三千夫・朝日新聞社 広告局などと共に室井氏が中央調査社・実施部長で名を連ねている。何回かにわたって研究委員会での時間を忘れての活発な議論の結果、3プロジェクトが決定。まず、①東京・大阪での多くの参加者に貢献する3日間の「広告管理セミナー」の開催、②広告活動理念・方針・戦略設定からケース スタディによる表現コンセプト、媒体選択・配分、手順プロセス管理、新聞のコピー、レイアウト、デザイン作成、さらには効果測定、最後に次期計画へのフィードバック内容などを4グループ間競争で検討し優勝チームを決める戦略プランナー対象の2泊3日の軽井沢開催コースを開発し、「Advertising Integration Seminar」と命名された。③最後は出版物による貢献で、“選ばれる商品”から、“選ばれる企業”へと産業界の動きに同調し未来提言として「企業広告」の発行（B5版・308ペー

ジ) が決まり、目標日にむかって詳細計画が好チームワークで進んだ。この3つのプロジェクトの成功は、“世界初、他に類を見ない”というコンセプトで創りあげたものであり、今でも60歳以上の関係者の語り草になっている。これこそ今こそ学ぶべき内容で、生き生きとした若さを今でも保っている。上記の研究委員会メンバーと共に室井氏の活躍は、目を見張るものがあった。

“室井哲学と実践の融合”へのスタートラインでもあった。

日本のマーケティング50周年推進協議会 事務局長

元社団法人 日本能率協会 マーケティング事業本部長

高 野 正 之

あ と が き

室井先生の米寿をお祝いするにあたって、先生がマーケティングの世界で活躍してこられた足跡を記録し、ご関係の皆様にも共有していただくことがベストではないかということになりました。当初の発想は、映像や音声を入れたCDの制作でしたが、諸般の事情により、小冊子にまとめることで落ち着きました。先生のホームページにある「日本の市場調査事始め」のタイトルから、マーケティングを主題に代えて使わせていただくことにし、編集委員がお宅に4回伺い、約10時間にわたりお話をお聞きました。初めてお聞きすることや歴史に残したい貴重な証言、また先生だけがご存じの秘話、裏話が多々あり、すべてを収録できればと思いましたが、紙幅の関係でご覧のような形になりました。戦後61年が経過しましたが、ほぼその全部を冷静に見通してこられた先生に、あらためて敬意を表する次第です。

編集委員を代表して 伊藤 泰敬

編集委員 伊藤 泰敬、木村 太三郎、原 晴實、
吉中 和夫、米田 清紀

(発行 2006年9月24日)